

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：37102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370147

研究課題名(和文) 平安～鎌倉時代における刀鍛冶の基礎的研究 刀鍛冶データベースの構築

研究課題名(英文) Basic research on swordsmith from Heian period to Kamakura

研究代表者

吉原 弘道 (YOSHIHARA, Hiromichi)

九州産業大学・基礎教育センター・准教授

研究者番号：50552212

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「平安～鎌倉時代における刀鍛冶の基礎的研究 刀鍛冶データベースの構築」として、日本刀の形式が完成する平安時代後期～鎌倉時代の日本刀について中世刀剣書や文献史料(中世の古文書・古記録)及び現存する日本刀(銘文)からアプローチした。これまで美術史(日本刀研究)及び歴史学・国文学の研究で参考資料としてしか取り扱われてこなかった中世刀剣書を中核に据え、中世刀剣書を収集して史料学的な分析を行ったうえで、文献史料(中世の古文書・古記録)及び現存する日本刀(銘文)の情報を加えて刀鍛冶のデータベース(刀鍛冶名・作刀時期・地域・流派)を構築した。

研究成果の概要(英文)：In this research, we conducted a study on swordsmith from the medieval sword book, the document history (medieval old document, old record), and the existing Japanese sword (inscriptions) as a fundamental study of swordsmith from Heian period to Kamakura period. It centered on medieval sword books that had been dealt with only as reference materials in research of art history (Japanese sword research), history studies, and national literature. We gathered medieval sword books and carried out historical analysis. In addition, we built a database of swordsmith (sword-wielding name, sword time, region & school) by adding information of literature historical documents (medieval old documents / old records) and existing Japanese swords (inscriptions).

研究分野：美術史

キーワード：日本刀 刀剣 刀剣書 刀鍛冶 銘尽

1. 研究開始当初の背景

これまで中世刀剣書は、美術史(日本刀研究)及び歴史学・国文学の研究では個別利用及び補助的利用に留まり、全体的な分析・利用はなされてこなかった。しかし、中世刀剣書には、現存する日本刀からは分からない「失われた日本刀」の情報を含めた豊富な情報が残されている。

とはいえ、中世刀剣書は、公刊が進んでいないため調査・収集及び翻刻・校訂作業を行わなくてはならない。さらに、記載内容も特殊であるため、詳細な整理・分析作業が必要である。こういった状況下、中世刀剣書を悉皆的に調査・収集し、史料学の専門家による中世刀剣書の史料学的な分析を行い、全分野の研究での基礎となる中世刀剣書を中心とした刀鍛冶データベースを構築する必要性を痛感した。そこで研究対象として、日本刀の形式が完成する平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶を取り上げることにした。

2. 研究の目的

中世刀剣書の史料学的分析、平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶データベース構築という2つの課題について、中世刀剣書、文献史料(中世の古文書・古記録)、現存する日本刀(在銘刀剣)という3つの方向からアプローチする。

現存する中世刀剣書は、転写過程において刀鍛冶の追加や本文の増補・改訂が行われている。このため、中世刀剣書の諸本を悉皆的に調査・収集したうえで、諸本を比較校合してテキストを最適化し、刀鍛冶の追加や本文の増補・改訂箇所の詳細な検討が必要となる。このような史料学的な分析により、中世における刀剣書の変遷が明らかとなり、後世に加えられた部分とオリジナルの部分の仕分けし、中世刀剣書をできる限りオリジナル段階へ還元して利用することが可能となる。

その基礎作業としても、中世刀剣書に収録された刀鍛冶の整理作業が急務である。中世刀剣書では、同一項目内や複数の項目で同名の刀鍛冶が散見される。この同名の刀鍛冶が、同一の刀鍛冶なのか、別々の刀鍛冶なのかを判別しなくてはならない。このためには、刀剣書単位で収録された刀鍛冶の記載を抽出し、刀鍛冶単位でデータベース化する必要がある。

さらに、平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶については、中世刀剣書だけではなく、中世の古文書・古記録の中にも記載があり、現存する日本刀にも銘文が残されている。このため、中世の古文書・古記録に記載された刀鍛冶の調査・収集及びデータベース化、日本刀関係書籍から現存する日本刀(在銘刀剣の銘文)の調査・収集及びデータベース化も必要となる。

中世刀剣書の情報だけではなく、性格の異なる情報からもデータベースを作成することにより、より重層的な平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶データベースを構築することが可能となる。

3. 研究の方法

(1) 中世刀剣書の調査・収集、翻刻・校訂、データベース化

中世刀剣書について、各機関に所蔵されている刀剣書を調査し、画像・写真・コピーなどを収集する。収集した中世刀剣書から平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶の記載を抽出し、刀剣書単位で該当箇所を翻刻・校訂する。翻刻・校訂作業の成果を踏まえて刀鍛冶単位で、刀鍛冶名、異称、作刀時期、作刀地域、流派に関する記載を入力してデータベース化する。

(2) 中世の古文書・古記録に記載された刀鍛冶の調査・収集、データベース化

中世の古文書・古記録に記載された刀鍛冶の記事について、刊本史料集(編年史料・個別史料・自治体史など)と未活字史料(写真帳など)を調査して平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶の記載を中心に抽出し、写真・コピーなどを収集する。収集した記事を刀鍛冶単位で、刀鍛冶名、内容(譲与・下賜・贈答など)を入力してデータベース化する。

(3) 日本刀関係書籍の調査・収集、データベース化

現存する日本刀(在銘刀剣の銘文)について、日本刀関係の書籍を調査し、平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶が製作した日本刀(在銘刀剣)を抽出し、写真・コピーなどを収集する。収集した在銘刀剣を刀剣単位で、銘文、刀鍛冶名、作刀時期、作刀地域、流派を入力してデータベース化する。

(4) 中世刀剣書の史料学的分析

中世刀剣書の調査・収集の成果を踏まえて、転写過程における刀鍛冶の追加や本文の増補・改訂箇所を明らかにし、刀剣書の変遷を段階的に把握し、中世刀剣書の成立や伝来・流布の過程、編者や筆写者の素性、中世刀剣書が作成された背景などに迫る。

(5) 平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶データベース

中世刀剣書から作成した刀鍛冶データベース、中世の古文書・古記録の記載から作成した刀鍛冶データベース、現存する日本刀の銘文から作成した刀鍛冶データベース、3方面から作成したデータベースを統合して名寄せし、平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶データベースを構築する。

4. 研究成果

(1) 中世刀剣書の調査・収集、翻刻・校訂、データベース化

中世刀剣書の調査・収集

中世刀剣書の調査・収集のため、国文学資料館、国会図書館、内閣文庫、東京大学史料編纂所、刀剣博物館、和鋼博物館、臼杵市教育委員会、東京都立図書館、島原図書館、岩瀬文庫、中之島図書館などに所蔵されている刀剣書（原本及び謄写・影写・写真など）の調査・撮影・複写・翻刻を行った。また、『刀剣美術』・『刀剣春秋』などの雑誌・新聞に収録され、現物が所在不明のものも収集した。

収集した主要な中世刀剣書は、以下の通りである。国文学資料館では、喜阿本銘尽・三好入道聞書などの調査・複写・翻刻を行った。国会図書館では、観智院本銘尽・長享本銘尽・口伝書などの複写を行った。内閣文庫では、能阿本銘尽などの調査・複写を行った。東京大学史料編纂所では、日本国鍛冶銘・往昔抄などの調査・複写・翻刻を行った。刀剣博物館では、直江本銘尽・能阿本銘尽・築本銘尽・佐々木本銘尽・正安本銘尽・三好入道聞書・元亀本銘尽などの調査・撮影を行った。和鋼博物館では、能阿本銘尽・伊勢本銘尽・三好入道聞書・芳運本銘尽などの調査・撮影を行った。臼杵市教育委員会では、臼杵本銘尽などの調査・撮影を行った。東京都立図書館では、喜阿本銘尽などの調査・複写・翻刻を行った。岩瀬文庫では、能阿本銘尽などの複写を行った。中之島図書館では、能阿本銘尽・口伝書などの調査・複写を行った。『刀剣美術』からは、喜阿本銘尽・聖阿本銘尽などの複写を行った。

以下、調査・収集した主要な中世刀剣書を系統別に区分した一覧表を掲げる。但し、所蔵者の都合により現段階で紹介できないもの（戦国時代に筆写された南北朝時代の中世刀剣書）、論文を学術雑誌へ投稿して査読審査中であるため紹介できないもの（日本最古の南北朝時代に書写された鎌倉時代の中世刀剣書）については除外している。

書名・系統	所蔵（機関・個人）
観智院本銘尽	国会図書館
活字本（『刀剣美術』）	
宇都宮本銘尽	和鋼博物館
刀剣博物館	
個人（『刀剣春秋』・部分）	
長享本銘尽	国会図書館
鍛冶名字考	天理図書館
喜阿本銘尽	

東京都立図書館	
大和文化館	
和鋼博物館	
活字本（『刀剣美術』）	
正安本銘尽	刀剣博物館
佐々木本銘尽	刀剣博物館
直江本銘尽	刀剣博物館
能阿本銘尽	中之島図書館
内閣文庫	
岩瀬文庫	
刀剣博物館	
和鋼博物館	
臼杵本銘尽	臼杵市教育委員会
往昔抄	個人（複製本）
個人（古今銘尽・複製本）	
個人	
聖阿本銘尽	活字本（『刀剣美術』）
日本国鍛冶銘	個人
三好入道聞書	和鋼博物館
刀剣博物館	
陽明文庫	
元亀本銘尽	刀剣博物館
口伝書	国会図書館
中之島図書館	
和鋼博物館	

中世刀剣書の翻刻・校訂

収集した中世刀剣書から、平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶の記載を抽出して翻刻し、他の中世刀剣書の記事と照合しながら校訂作業を行った。

中世刀剣書に記載された刀鍛冶データベース化

翻刻・校訂作業を踏まえて、刀剣書単位で記載された平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶をデータベース化した。データベース化した項目は、刀鍛冶名、異称、作刀時期、作刀地域、流派などを刀鍛冶単位で入力した。

さらに、刀鍛冶単位で名寄せ作業を行って、同名鍛冶で別人の場合は・・・と枝番を振って区別した。

(2) 中世の古文書・古記録に記載された刀鍛冶の調査・収集、データベース化

中世の古文書・古記録に記載された刀鍛冶の調査・収集

刊本史料集（編年史料・個別史料・自治体史など）から刀鍛冶に関する記載を収集し、東京大学史料編纂所で主要な未活字史料（写真帳など）からも刀鍛冶に関する記載を収集した。まず、刊本史料集を中心にして、蔵書・所属大学の図書館及び近隣大学の図書館などで調査・収集を行った。さらに、東京大学史料編纂所において主要な未活字史料（写真帳など）の調査も行ったが、出張による調査では時間的な制約があり悉皆的な調査・翻刻は行えなかった。

中世の古文書・古記録の調査により、日本刀（在銘刀剣）の贈答に関する記載が室町～戦国時代の古文書・古記録に大量に存在することが再確認でき、研究対象であった平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶だけでなく、研究対象外であった南北朝時代以降の刀鍛冶の記載も多数含まれていた。

ただ、活字史料の場合、誤読・誤植などの可能性があるものが散見され、精度を上げるためにも写真帳・影写本による詳細な校正作業が今後の課題である。

中世の古文書・古記録に記載された刀鍛冶データベース化

収集した中世の古文書・古記録に記載された刀鍛冶の記事から、平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶の記事を抽出してデータベース化した。データベース化した項目は、刀鍛冶名、内容（贈与・下賜・贈答など）を入力した。

さらに、刀鍛冶単位で名寄せ作業を行ったが、収集した史料のほとんどが刀剣の贈答に関する記事であり、刀鍛冶の名前しか記載がなく同名鍛冶の判別が困難なものが多かった。また、刀鍛冶の名前しか記載がないため、刀鍛冶の時代判定も困難であり、南北朝時代以降の刀鍛冶も散見された。

（3）日本刀関係書籍の調査・収集、データベース化

日本刀関係書籍の調査・収集

日本刀関係書籍を調査して、国指定文化財（国宝・重要文化財・重要美術品）、御物、財団法人日本美術刀剣保存協会指定品（特別重要刀剣・重要刀剣）から平安時代後期～鎌倉時代の現存する日本刀（在銘刀剣）を抽出・収集した。

国指定文化財（国宝・重要文化財・重要美術品）については、『国宝刀剣図譜 1～16』・『国宝・重要文化財大全 工芸品 下』・『重要文化財 27 工芸品 4』・『新指定重要文化財解説版 6 工芸品 3』・『日本刀重要美術品全集 1～8』などを調査した。

御物については、『御物東博銘刀押形』・『皇室の至宝 4 御物 彫刻・工芸』・『御剣』などを調査した。

公益財団法人日本美術刀剣保存協会指定品（特別重要刀剣・重要刀剣）については、

『改訂 重要刀剣等分類目録』・『重要刀剣等図譜 1～61 回』・『特別重要刀剣等図譜 1～24 回』・『刀剣美術』所載の第 62 回重要刀剣指定品目録などを調査した。ただ、『重要刀剣等図譜』・『特別重要刀剣等図譜』は、公共図書館には一部しか所蔵されておらず、全冊の調査は日本美術刀剣保存協会の資料室でしか行えなかった。出張による調査では時間的な制約があり、同名鍛冶の処理と時代・流派の特定のための詳細な調査までは行えなかった。

現存する日本刀の銘文（刀鍛冶名）のデータベース化

収集した平安時代後期～鎌倉時代の国指定文化財（国宝・重要文化財・重要美術品）、御物、公益財団法人日本美術刀剣保存協会指定品（特別重要刀剣・重要刀剣）の日本刀（在銘刀剣）について、銘文を中心にして解説なども参考にデータベース化した。データベース化した項目は、銘文、刀鍛冶名、作刀時期、作刀地域、流派などを入力した。

さらに、刀鍛冶単位で名寄せ作業を行って、同名鍛冶で別人の場合は・・・と枝番を振って区別した。

（4）中世刀剣書の史料学的分析

中世刀剣書の調査・収集により、主要な中世刀剣書及び新出の中世刀剣書を収集することができ、日本最古の南北朝時代に書写された中世刀剣書も新たに発見することができた（現在論文を作成して学術雑誌に投稿して査読審査中である）。さらに、収集した中世刀剣書を整理して史料学的に分析し、刀剣書が鎌倉時代に成立して南北朝～室町・戦国時代を通して増補されていく過程、中世武家社会で刀剣書が流布していく過程を具体的に明らかにできた。

また、複数の伝本を収集して分析したことにより、伝本の系統分類及び古写本・古態本（後世の追加・訂正が加えられる以前の姿を知ることができる古い時代に書写された写本）の確定が可能となった。そして、転写を繰り返す中で追加・訂正が行われた箇所特定が可能となったものもあり、オリジナルの刀剣書の記載なのか新たに追加されたものかが峻別できたものもある。

さらに、中世刀剣書の流布過程を明らかにすることにより、足利将軍家における刀剣の贈答システム運用に関して、刀剣の鑑別・管理を行う刀剣の専門家として将軍に仕えた遁世者が活躍していたことも明らかにできた。

（5）平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶データベース

完成した3つの刀鍛冶データベース（中世刀剣書、中世の古文書・古記録の記載、現存

する日本刀の銘文)を統合し、刀鍛冶単位で名寄せして平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶データベースを構築した。統合した刀鍛冶データベースの中核となったのは、中世刀剣書から作成した刀鍛冶データベースだった。

刀鍛冶データベースには、中世刀剣書から刀鍛冶及び太刀磨(研師)を採録し(刀鍛冶の親族として系図に掲げられた「男」・「女」などは除外した)、中世刀剣書に未収録の刀鍛冶で製作した日本刀が現存するものは銘文から全て採録した。ただ、中世の古文書・古記録の記載は、単独では刀鍛冶の時代判定が困難であり、独立して採録はしなかった。

以下、平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶データベースに収録した項目を掲げる。なお、採録内容は、史料表記にとらわれず適宜統一した。

「刀鍛冶名(統一)」は、複数の名称のある刀鍛冶は頻度の高い名称を優先させた。基本的に苗字などは除いたが、通称を特定できないものは一部残した。また、同名鍛冶で別人の場合は、・・・と枝番を振って区別した。

「異称」は、刀鍛冶名・異称・官途及び身分に関する記載を採録した。

「国」は、中世刀剣書では目次・記事内に含まれる国名・地名から採録した。現存する日本刀では、銘文の記載及び解説から採録した。「長船」=備前、「備州」=備州、「粟田口」=山城、「青井」=備中、「浪平」=薩摩などは、国を推定できるものだけ採録した。また、「奥州」陸奥、「筑紫」鎮西は統一したが、「備州」は推定できるものは備前・備中・備後に区分した。

「流派」は、流派、特定地域(長船・鎌倉・京など)、師弟関係、親族関係(親子・兄弟など)を採録した。また、「青井」=青江、「浪平」=波平、「三宅」・「三家」=三池などは、通称には統一した。

「時代」は、中世刀剣書では年号・逆算年、昔、人名(天皇・院・執権など)、同時代の刀鍛冶名の記載を採録した。現存する日本刀では、銘文に記載された製作年号及び解説から採録した。

「中世刀剣書」は、主要中世刀剣書の一覧項目を作成し、該当の刀鍛冶が収録されている中世刀剣書に「」を記載した。

「文献(中世の古文書・古記録)」は、該当の刀鍛冶が収録されているものがあれば「」を記載した。なお、同名鍛冶であれば、同一の刀鍛冶かどうかの判別が困難なものも採録した。

「現存品」は、刀鍛冶の製作した日本刀(在銘刀剣)が現存していれば指定区分により「国宝」・「重文」・「重美」・「御物」・「特重」・「重要」と順位の高いものを1つ記載した。なお、同名鍛冶であれば、同一の刀鍛冶かどうかの判別が困難なものも採録した。

データの一部については、HPを作成して一般公開の準備を行っている。なお、現在、

基盤研究(C):2017～2019年度「室町～戦国時代における日本刀の贈答と在銘刀剣の美術的評価に関する基礎的研究」(17K02334)として、南北朝～室町時代の刀鍛冶データベースを作成しており、平安時代後期～鎌倉時代の刀鍛冶データベースと統合し、中世刀鍛冶の総合データベースへと進化させる予定である。このため、本格的なHPでの公開は、中世刀鍛冶の総合データベースの完成後(2020年4月頃)を予定している。

(6) 今後の展望

中世刀剣書の調査・収集、刊本史料・未刊史料の調査・収集、史料の翻刻・校訂、データ入力、データベースの構築など、基礎作業に大幅な労力を割いたため、論文執筆に十分な時間を掛けることができなかった。今後は、研究成果を踏まえて、論文を作成して公表して行きたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3件)

吉原弘道「銘尽(観智院本)」の収録刀工(二)九州産業大学基礎教育センター研究紀要、査読無、第5号、2015、p.63-91

吉原弘道「重要文化財「銘尽(観智院本)」の復元とその性格(一) 中世刀剣書の祖型をめぐって」、刀剣美術(九州産業大学基礎教育センター研究紀要1号掲載論文の再掲載)、査読無、第704号、2015、p.2-18

吉原弘道「重要文化財「銘尽(観智院本)」の復元とその性格(二) 中世刀剣書の祖型をめぐって」、刀剣美術(九州産業大学基礎教育センター研究紀要1号掲載論文の再掲載)、査読無、第705号、2015、p.2-21

[その他]

ホームページ等

中世刀鍛冶データベース

<http://www.kyusan-u.ac.jp/~yosihara>

上記のアドレスで公開予定である。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉原 弘道(YOSHIHARA, Hiromichi)

九州産業大学・基礎教育センター・准教授
研究者番号:50552212

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし